

会計リテラシー・マップ

		ライフステージ			ライフステージ				
		小学生期		中学生期	高校生期	大学生期	成人期		
		低学年	高学年				青年・壮年	高齢者	
		社会の中で生きていく力の素地を形成する時期		将来の自立に向けた基礎的な能力を養う時期	社会人として自立するための基礎的な能力を養う時期	社会人として自立するための能力を確立する時期	社会人として自立し、本格的な責任を担う時期	年金収入や金融資産の取り崩しが生活費の主な源となる時期	
会計リテラシー		現金収支を記録・管理する技術			ライフプランに基づき、生涯にわたる資金収支計画を作成・実行し、必要に応じてそれを見直す技術				
		利益計算の理解			貸借対照表および損益計				
					算書の理解・発生主義会計の理解				
					資産・負債を記録・管理する技術				
	アカウンタビリティの理解（記録・報告には、誠実、公正、信頼が伴う。）			○受託者が自らの行動を記録し、委託者に報告する責任					
	○報告すること								
主な収入源		おこづかい	おこづかい	おこづかい	おこづかい・アルバイト収入	仕送り・アルバイト収入・奨学金	給与・事業所得・資産運用収入	年金	
家計管理・生活設計（個人・家族）	<p>□ 総則（社会生活との関わり）</p> <p>親と買い物に出かけ、お金で商品が売買されていることを知る。</p>	<p>□ 算数</p> <ul style="list-style-type: none"> おこづかい帳の月ごとの収入と支出の合計を計算することができる。 おこづかい帳で翌月への繰越金額を計算することができる。 	<p>□ 家庭</p> <p>□ 算数</p> <ul style="list-style-type: none"> おこづかいの使い道について計画を立てることができる。 貯金をして目的のものを購入することができる。 家計の仕組みを知る。 	<p>□ 技術・家庭（家庭分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> 支払い時期（前払い、即時払い、後払い）を考慮した計画的な資金管理について理解する。 商品の情報を比較検討し、予算内で購入の意思決定をすることができる。 	<p>□ 家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校卒業後の進路や職業選択などのライフプランに基づいて、生涯にわたる資金収支計画を作成することができる。 その際、様々な選択肢やリスクへの対応策を考慮し、また、社会保障制度を関連づけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 限られた予算の中で、資金収支計画を作成・実行することによって、生活を維持していくことができる。 中・長期的な資金収支計画を作成・実行し、必要に応じてそれを見直すことができる。 複数の収入と支出を管理するための収支計算書を作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 退職後の生活設計に基づく資金収支計画を作成・実行し、必要に応じてそれを見直すことができる。 その際、退職後の生活を維持するための資産形成の必要性を考慮することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 負債を管理することができる。（クレジットカードリボ払い、奨学金など） 負債の返済計画を立て、実行することができる。（奨学金、住宅ローンなど） 資産を管理することができる。（預金、株式、学資保険など） 	<ul style="list-style-type: none"> 資産を管理することができる。（相続資産、贈与資産）
	<p>□ 総則（社会生活との関わり）</p> <p>親と買い物に出かけ、お金で商品が売買されていることを知る。</p>	<p>□ 社会</p> <p>□ 算数</p> <ul style="list-style-type: none"> 利益計算の仕組みを理解する。 会計情報を使って、商品の値段が決められていることを理解する。 	<p>□ 社会（公民的分野）</p> <p>経済の仕組みとの関連で</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産活動と企業会計 株式会社の仕組みと企業会計 金融の仕組みと会計情報 	<p>□ 公民（公共）</p> <p>□ 公民（政治・経済）</p> <p>会計の役割を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 財務会計を理解する。 管理会計を理解する。 財務諸表分析の仕方を理解する。 税務会計を理解する。 会計監査を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職・転職活動の際、企業その他組織が公表する財務諸表を活用することによって、企業その他組織の財政状態および経営成績も判断材料の1つとすることができる。 収入と支出を管理するための収支計算書を作成し、メンバーに頼末を報告することができる。（サークル・ゼミ・町内会・マンション管理組合・PTA・老人会など） 収支計算書および現金・預金残高について監査係・監事はその正確性をチェックすることができる。 予算を作成し、実行することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業その他組織の経済活動を発生主義会計を用いて記録することができる。 利害関係者に対して、財務諸表をもとに、企業その他組織の財政状態および経営成績を報告することができる。 会計情報をもとに、経営をマネジメントすることができる。 予算を作成し、実行することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 選挙に行き、投票する。 国や自治体が公表する財務諸表を読み、財政状況を理解することができる。 政策が財政状況に与える影響を検討することができる。 		
社会生活	<p>□ 総則（社会生活との関わり）</p> <p>親と買い物に出かけ、お金で商品が売買されていることを知る。</p>								
	<p>□ 学校科目との関連</p> <p>マップ内の科目（紫色で塗られている項目）は、小学校、中学校、高校それぞれにおける授業科目との連動を意味しています。なお幼児期の「総則」とは保育園・幼稚園の指導要領内に記載されている教育の基本姿勢に当たります。</p>								

会計リテラシー・マップの構成・見方

生涯で身につけておきたい会計リテラシーの内容を具体化し、各ライフステージ別（横軸）にマッピングしています。会計リテラシーが欠かせない金融経済教育でも活用できるように、ライフステージの区分は、「金融リテラシー・マップ」に合わせています。マッピングにあたっては、「家計管理・生活設計（個人・家族）」と「社会生活」という2つの領域（縦軸）を設定しています。

マップの上段には、ライフステージが進むにつれて段階的に身につけるべき会計リテラシーの内容を階層的に示しています。最も基礎的なリテラシーである「アカウンタビリティの理解」を、1番下に配置することによって、アカウンタビリティの理解が会計リテラシー全体の基盤となっていることも示しています。